

平成30年度事業計画及び収支予算等について

【事業計画】

東日本大震災及び東京電力（株）福島第一原子力発電所事故から間もなく7年を迎えようとしています。

原子力協議会においては、県民のニーズに応え、放射線や原子力の正しい知識の普及・啓発事業を行うとともに、魅力ある原子力科学館を目指し、科学実験教室、イベント等を近隣の科学館とも連携して開催し、来館者が震災前の水準に回復するよう、引き続き努めてまいります。

また、老朽化に伴い修繕・維持費が増加し、陳腐化しつつある展示物のリニューアルの基本構想の策定を踏まえ、国に対しリニューアル計画の実現に向け働きかけてまいります。

さらに、「暮らしの中の放射線」について、広報紙「かがやき」を用いてシリーズで広く県民に広報するなど、平成27年度を初年度とする「中期計画」に沿って着実に事業を推進し、科学技術の振興に寄与してまいります。

I 展示館事業

1 原子力科学館の常設展示及び企画展示等

(1) 常設展示

	展示名	開催時期	内 容
①	常設展示	通年	・原子の科学や放射線の基礎、原子力と放射線の利用及び原子力の安全に関する展示 ・自然放射線を観察する「大型霧箱」の展示
②	放射線利用展	通年	・医療、工業、農業など広範な分野で利用されている放射線について、実物照射製品、医療施設等の模型、パネルを展示
③	J-PARC の概要	通年	・大強度陽子加速器施設（J-PARC）について、パネル及び模型を展示
④	福島第一原発事故展示	通年	・事故の収束に向けた道筋に関する東京電力資料をパネルで展示 ・本県環境への影響に関する資料を展示
⑤	JCO 臨界事故模型	通年	【経済産業省からの受託事業】 ・JCO 臨界事故について、装置の模型、映像、パネルを展示
⑥	東海第二原子力発電所の安全対策に係る展示	通年	【日本原子力発電(株)からの受託事業】 ・東海第二原子力発電所における、福島第一原発事故以降の安全対策に係るパネル等を展示

⑦	梶田教授のノーベル物理学賞受賞記念展示	通年	・梶田教授のノーベル物理学受賞及び J-PARC とスーパーカミオカンデを繋ぐ T2K 実験の解説パネルを展示
---	---------------------	----	---

(2) 企画展示及び関連講演会

	展示名・講演会名	開催時期	内 容
①	生物多様性一人と自然の共存	4/17 ～6/17	・近年多様な生物資源を含む自然資源の過剰な利用により環境悪化が急速に進んでいる。この豊かな自然環境を未来に残してゆくために、生物多様性や環境保全分野における開発途上国への日本の取り組みを紹介。
	講演会「野生動物と人間の共存！ - (仮)」	5～6月	
②	潜水調査船がみた深海生物	7/31～8/26	・JAMSTEC の深海調査船が遭遇した暗黒・高圧・低温の過酷な環境である深海に適応し進化を遂げてきた生物を写真で展示。その不思議な生態の一部も併せて紹介。
	講演会「深海生物と不思議な生態！ - (仮)」	7～8月	
③	はやぶさ君の冒険日誌	11/6 ～1/14	・小惑星探査機「はやぶさ」の上げた様々な成果や遭遇したトラブルの様子を宇宙を冒険する少年の姿と重ねて絵本の形式で紹介。
	講演会「はやぶさの持ち帰ったもの？ - (仮)」	11～12月	
④	Lesson #3.11 学びとる教訓とは何か	2/5～3/17	・「3.11 を経験した社会として、私たちは何をしなければならぬか」という答えのない問題に、科学的情報を提供し、来場者自らが向かい合う機会を提供する展示。
	講演会「雲のできるしくみービンの中で雲をつくってみよう！ - (仮)」	2～3月	

(注) 全国科学館連携協議会との共催による企画展

(3) 貸しギャラリー

	展示名	開催時期	内 容
①	東海村アートロード展	3/20～4/15	・東海村に居住又は勤務する，文化協会東海美術連盟会員及びアートロード会員の作品（絵画・写真・書）を展示。
②	東海フォトクラブ	6/20～7/2	・東海フォトクラブによる写真展示。

(注) 企画展示以外の期間について，展示随時募集

2 原子力科学館イベント

	イベント名	開催時期	内 容
(1)	ゴールデンウィークイベント	5/3～5	・サイエンスショー ・工作教室ほか
(2)	夏休みイベント	7/21～8/26	・紙アクアリウム (自分の描いた絵が動きだす)
		8月の金，土，日曜日	・放射線ってなあ～に？・・・測定器を使って身の回りの放射線を測ってみよう！
(3)	クリスマスイベント	12月	・サイエンスショー ・工作教室ほか
(4)	バレンタインイベント	2月	・サイエンスショー ・工作教室ほか
(5)	親子星空観望会	8月～3月	・惑星や星座の観望

3 近隣科学館との連携

(1) 工作教室等

(2) 夏休み5館スタンプラリー、2館スタンプチャレンジ

4 原子力科学館の運営管理

(1) 展示施設の維持管理

- ①地震時避難誘導訓練（原則毎月）
- ②火災時の通報訓練，消火訓練（1回/年）
- ③普通救命講習会（1回/年）

(2) 原子力科学館への誘客広報

- ① 県内各小中学校に対し，原子力科学館を校外学習の場として利用するよう働きかけ
- ② 周辺地域の公共施設，観光施設等に原子力科学館パンフレットを常時配置
- ③ 近県の旅行代理店やバス事業者に原子力科学館リーフレットを送付
- ④ 原子力科学館の年間イベントスケジュールの早期発信

(3) 展示物等のリニューアル計画

- ・国へリニューアル予算（詳細設計）の概算要求

II 普及啓発事業

1 講演会，セミナー等開催事業

	事業名	実施時期	内 容
(1)	サイエンス工房	4月～3月	次世代層を対象に，科学への関心・興味を喚起することを目的に実施 実施回数；20回
(2)	講演会の開催		展示館事業の企画展示及び関連講演会参照
(3)	シリーズ「放射線・原子力の基礎講座」	9月～1月	アインシュタインスクール (開催場所；UPZ圏内の市町村) 第1回演題；放射線の基礎 第2回演題；原子力事故と安全・防災対策 第3回演題；放射性廃棄物と原子燃料サイクル 第4回演題；世界と日本のエネルギー問題
(4)	出前原子力展示	8月 11/3 11/23 10月	市町村等のイベントに霧箱やパネルを展示し，放射線や原子力の基礎知識のミニ教室を開催 ① なかひまわりフェスティバル ② 大洗商工感謝祭 ③ 東海村 I～MO のまつり ④ 茨城町涸沼環境フェスティバル
(5)	視察研修 研修会Ⅰ 研修会Ⅱ	10月 11月	① 研修Ⅰ 新潟県柏崎方面(1泊2日) ② 研修Ⅱ 福島方面

(6)	原子力広報機関連絡会の開催 (第 33 回)	10 月	原子力広報機関連絡会は毎年 1 回 5 機関事務局持回りで開催。各機関からの質問事項に対して意見交換
(7)	新春のつどいの開催	1/10 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・会場；水戸プラザホテル (予定) ・参加人数；約 350 名 ・出席者；国会議員，県知事，県議，市町村長，正会員，賛助会員他 (予定) ・出展ブース；県北 9 市町村及び会員企業 (予定)，(公社)茨城原子力協議会

2 調査・分析，資料収集・提供事業

(1) 広報紙「かがやき」の発行

発行回数	4 回/年
発行部数	10,000 部 (2,500×4 回)
主な内容	<p>第 69 号 (7 月発行予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度定時総会を開催，GW イベント報告，暮らしの中の放射線，市町村夏のイベント情報，展示館イベント情報他 <p>第 70 号 (9 月発行予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み原子力科学館イベント報告，暮らしの中の放射線，市町村秋のイベント情報，展示館イベント情報他 <p>第 71 号 (12 月発行予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海 I～M0 のまつり報告，暮らしの中の放射線，市町村冬のイベント情報，展示館イベント情報他 <p>第 72 号 (3 月発行予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年新春のつどいを開催，暮らしの中の放射線，展示館イベント情報他 <p>平成 30 年度より『暮らしの中の放射線』について情報提供を図る。</p>

*平成 30 年度も，原子力協議会ホームページに掲載し，適時に情報提供を図る。

(2) 原子力施設安全調査員の市町村等への配置【茨城県からの受託事業】

実施時期	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
配置先及び配置人数	茨城県，東海村，大洗町 各 2 名 那珂市，水戸市，日立市，常陸太田市，鉾田市，茨城町 各 1 名
活動内容	原子力防災や環境放射線監視業務の支援

Ⅲ 役員等に関する事項

	日程	審議事項
第1回理事会	5月下旬 予定	平成29年度事業報告及び収支決算，定時総会の開催について（予定）
定時総会	6月下旬 予定	平成29年度事業報告及び収支決算，理事の選任について（予定）
第2回理事会	11月下旬 予定	平成30年度収支予算の補正(案)等について（予定）
第3回理事会	2月下旬 予定	平成30年度事業報告，収支予算の補正及び収支決算見込み，平成31年度事業計画及び収支予算等について（予定）

Ⅳ 組織体制等に関する事項

1 財務体質の強化

ここ数年にわたり会員の退会及び会費の減額が相次ぎ，さらに施設・設備の老朽化に伴う修繕費の増加に伴い，財務状況はなお一層厳しさを増している。

新規会員の獲得，会費の増額，資金の有効活用のため客観的な評価に基づく事業のスクラップアンドビルドを図るほか，経費の削減や新規事業の獲得を図る。

2 事業力の強化

原子力科学館の団体客は，東日本大震災以降低迷していることから，近県の旅行代理店等に原子力科学館のリーフレットを送付するとともに，県内の全小中学校に対し校外学習での利用を呼びかけ，来館者の増加に努める。

また，外部資金の導入による事業の推進を図る。

3 組織体制

数少ない人的資源を有効に活用するため，外部研修等を通じて職員の意識改革とスキルアップを図るとともに，「顧客第一」の徹底を図る。